

狛江市長
松原 俊雄 様

防災フェアでの自衛隊による「戦争体験」への 再申入れに対する再回答についての意見

防災フェア自衛隊参加に関する私たちの再申入れに対して再回答（狛総安発第 000404 号。以下、再回答）をありがとうございます。しかし、再回答でも問題の焦点をぼかしているとの思いをぬぐえません。以下、何点か指摘させていただき、今後の市政に反映させていただければと考えます。

- 1 再回答では「自衛隊が出展した戦闘機等のバーチャルリアリティ体験が戦争を想起させるものであり、防災訓練と無関係であったというご指摘は受け止め、今後の内容については随時協議、調整しながら市民の皆様の安心安全確保や狛江市の減災につながられるよう進めます。」そして、「防災フェアが戦闘訓練、戦争体験をさせることを目的としたイベントではないことをご理解ください。」とあります。

したがって、防災に名を借りて、戦闘訓練や戦争体験を想起させるようなことは「しない」と明確に述べていませんが、「指摘を受け止めて」「減災につながられるよう進めます」とありますので、今後は「戦闘訓練や戦争体験を想起させるようなこと」はさせないと理解いたしますので、くれぐれも裏切ることのないようにしてください。

- 2 問題なのは自衛隊のこの「戦闘訓練や戦争体験」が「出展内容の一部」だとわざと軽視していることです。事実をありのままに見て欲しいと思いますが、被災地派遣に関わることは極一部で、出展する口実であって、主力はVR体験でした。こうしたことは民間企業の出典の場合でも大いに問題にされるべきことかと思います。防災そのもので、関係のない自社製品の宣伝をしていたら、その企業は二度と出展させないでしょう。まして自衛隊は「戦闘」（人を殺すこと）を本務としている「軍事組織」です。そうした自衛隊に関しての対応は自治体として慎重にしていきたいと思います。

- 3 繰り返しになりますが、自衛隊は安保法制により集団的自衛権を保持し、米軍と統一指令部を設け、敵基地攻撃能力を持ちつつあります。憲法違反、少なくとも憲法違反の疑いがある自衛隊に対して、平和都市宣言を発出している狛江市としては自衛隊の宣伝の片棒を担いだり、隊員募集に協力するべきではないと考えます。

狛江市の市政として、政府に安保法制を破棄し大軍拡を止めるよう要請していただきたいと考えます。

私たちは原発のない社会、気候危機を克服した社会を望んでいます。戦争も核兵器もない平和な未来を求めています。

2025年2月13日

原発と気候危機を考える会
連絡責任者 西尾真人
和泉本町 3-35-8
03-3480-7477
manishio@jcom.zaq.ne.jp